時事新報定價

時事新報は毎號八面乃至十二面にして詳細なる商況物價の報告あり其代價遞送料は左の如し

一號 貳錢五厘○一箇月 前金五拾錢○三箇月 前金壹圓四拾五錢○六箇月 前金貳圓八拾五錢○一箇年 前金五圓六拾錢○月曜日休刊（此他大祭祝日年始年末等一切休刊セズ）

時事新報遞送料

一 日本國內並に朝鮮國京城、仁川、釜山、元山津	一箇月 金拾三錢
二 南亞米利加、中央亞米利加、米國若くは加奈陀を經て郵送する歐洲各國	一箇月 金六拾錢
三 北米合衆國、英領加奈陀、布哇諸嶋	一箇月 金三拾錢
四 香港を經て郵送する亞細亞諸港、太平洋諸嶋、濠洲	一箇月 金六拾五錢
五 露領浦潮斯德、淸國諸港	一箇月 金三拾五錢

時事新報廣告料（前金）

一行五號活字廿四字詰	一日限	一日以上六日迄	七日以上
一行ニ付	十三錢	十一錢	十錢五厘

本社へ寄稿に付

東京府下を始め各府縣に通信社なるものありて是より各新聞社に報道を發送し各新聞社は之を受けて紙面を塡塞するより各社同一の記事を掲ぐること寡からず獨り時事新報社は社員並に通信員の多きを以て斯類の社に通信を依賴せずと雖も世間往々此事を知らずして通信社にさへ報道すれば本社にも其報道は達する事と信ずる方多きが如し爲めに行違ひを生じたる場合も寡からざれば本社に記事論說を寄稿せんとする方は直接に本社に向け發送あらんことを請ふ

時事新報社に達したる投書の原稿は凡て寄稿者に返戻せず又本社に保存せず

時事新報

教育家の擧動に就て

現任大臣就職の後、文部の施政を見るに別に著るしき變化はなけれども近來世間にて喋々する官立學校の官制改正を始めとして高等中學と私立學校との聯絡の如き修身書選定の標準の如き又小學校の式日に關する注意の如き從來の方針と少しく色を異にしたるものあるに似たり素より些々たる細事件にして未だ當局者の本領を窺ひ知るに足らずと雖も從來文部の施設は一として不評判ならざるものなきに拘はらず今度の處置に就ては世間に反對の說少なきのみか寧ろ同情を表して或は當局者の意氣込み少しく急なるを見て親切にも其前途を氣遣ふものさへもある折柄、豈に圖らんや教育社會に一種の反對論を生じ然かも其主唱者たるものは先頃まで文部に職を奉じ樞要の地位を占めたる人にして之に附和する舊官吏の輩も少なからず教育硏究の目的を以て組織したる某會某社を機關と爲し全國の教育者に氣脈を通じて大に當局者に反對するの覺悟なりとか云へり近來の奇相にして世人の驚く所なる可し或は其反對者の專ら主張する所を聞くに今度の改正は官立學校の地位を低くし規模を縮めたるものにして教育を重んずるの趣旨に非ず且現任大臣は曾て小學校の補助費を國庫より支辨するの說に贊成を表したるにも拘はらず近來の日氣に攝れば意見を變じたるが如し教育の事に不親切なりと云ふに過ぎず其說の當否は兎も角もとして年來教育の社會に身を投じ平生の見聞も自から其事に僻し教育を以て最大最重の事業と心得る輩に於ては當局者の施設を以て恰も教育を輕んずるものと爲し一意これに反對するも敢て怪しむに足らざれども其輩の如き久しく文部の部內に在りて相應の地位を占め曾て世間の攻擊を被りて反對の燒點に當り毎度その中の辛酸を味ふたるのみならず今の當局者とは同じく明治政府に仕へて自から同僚同穴の情誼もあることなれば若しも其人に對して言ふ可きこともあらば自から手段もある可きに然るに事、玆に出でずして公然反對の運動を試み恰も今の民黨が政府に對するの所爲を學ぶは甚だ穩かならぬ擧動なりとて其說は兎も角もとして擧動に就て疑を抱く者も少なからず或は裡面の內情にまでも立入りて云々の關係あり斯く〳〵の事情ありとて之を怪しむものさへなきに非ざれども我輩の所見を以てすれば此事たる疑ふに足らず又怪しむに足らず政府の官吏が何かの事情にて職を去るときは忽ち反對の情を現はすこと明治社會の常態にして其事例も乏しからず獨り文部の舊官吏のみ然るに非ず今回の事は特に或る部分の局所に發したるを以て適ま世間の怪訝を招きたるに過ぎざるのみ抑も今の官吏は何れも封建士族の遺流にして忠君愛國、國家の爲めに一身を捧ぐるの精神は遺傳教育の然らしむる所、今日に至るも依然として變ずることなし屬官雇の類に至るまでも皆この精神にして小官の卑しきに居ながら自から國家の重きに任じ孜々勉強して職と共に倒れんと誓ひたるものが一旦何かの都合に由りて非免の沙汰に遇ふときは平生正直の心よりして自から他の無情を憤ふるの情なきを得ず殊に家計の事に無頓着なるは士族流の常にして官途に在りて俸給の豐なる日に於てさへ尙は時として債鬼門を窺ふの厄を免れざるに突然支給の道を絶たるゝときは忽ち眼前の生活に迷ふことなれども正直一偏の外に他の藝能とてはなき其上に氣位のみは頗る高くして容易に人に屈せざるが故にます〳〵身を處するの路に窮してます〳〵不平に堪へず左ればとて尋常一樣の人事に當らんとすれば本來無藝無能にして唯その身に適するは官途の一方あるのみ是に於てか滿腹の不平は發して政府に向はざるを得ず誠に窮窟なる次第なり從來世間に政府反對の思想少なからざれども唯漠然たる民權云々の空論なりしに近來その論に供するに種々の材料を以てして空論をして實論に近からしめ以て政府の弱點を衝て當局者に苦痛を感ぜしむるに至りしものは免職官吏窮餘の運動與りて大に力なきに非ず世に明白なる事實にして今回教育社會の擧動の如き畢竟その一例たるに過ぎず今更ら怪しむに足らざるのみか寧ろ尋常一樣の事相にこそあれば我輩は特に其人に就て云々するを欲せざるものなり就て思ふに政府にては今回行政整理の爲め大改革を行ふよし官吏の非免沙汰も必ず多きことならん亦是れ一難を加ふるものにして今後の多事思ひ知る可し自から止むを得ざる次第にはあれども社會の治安の爲めには甚だ妙ならず其始末に就ては經世家の一考を要する所なる可し

官報

○勅令

朕富岡製絲所官制ノ廢止ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十六年十月一日

內閣總理大臣伯爵伊藤博文
農商務大臣伯爵後藤象二郎

勅令第百六號

明治二十三年勅令第百十六號富岡製絲所官制ヲ廢止ス

雜報

○市會議員撰擧の結果

日本橋區一級市會議員撰擧を此程同區役所に於て執行したる結果は左の如し

十一點 當撰 橫山富次郎
八 點 次點 倉田 七郎

○大日本水產會幹事改撰

同會幹事箕作、關澤の兩氏は本年滿期となりたるに付近日改撰を行ふ由なるが其候補者は學藝委員松原新之助氏外一名なりと

○堂嶋米商會所組長の撰擧

大坂堂嶋米商會所の仲買人八十九名（內新加入十八名あり）は已に新取引所の仲買人たるの許可を得たるに付去る二十九日後場引後組長の撰擧會を開きたるに北野平兵衛、古門九衛門、二川鹿之助、谷澤治良平、桑木吉太郎、伊藤久兵衛、進藤嘉一郎、荒木英一、和久伊兵衛、田內平五郎の十氏當撰し更に此中より仲裁委員を撰擧したるに北野平兵衛、進藤嘉一郎、荒木英一、古門九衛門の四氏當撰したるも古門氏辭退せしに付次點の田中丑三氏を推撰したりと又此席に、手帳、賣買、當座帳、賣買米口譯帳、取引所差引帳、口譯差引帳、金錢出入帳の改正及び同米商會所名稱變更より生ずる徽號等の改正を議定したるよし

○醫術開業試驗志願者

來る十一月を以て執行する醫術開業試驗志願者は二千六百五十五人にして內前期千五百十四人後期千三十三人齒科百八人にして尙は京都、長崎等を合すれば總員四千六百七十七人なりと云ふ

○大坂水道鐵管の入札

前號の電報欄內に記載したる如く一時紛紜を極めたる大坂水道鐵管鑄造不足額五千三百十五噸丈十二呎の再入札は以前破約せし橫濱のマデソン商會を除き來る二十三日大坂府廳に於て入札を行ふ事に決したるよしなるが今回の入札者は二十二人の豫定なるも暫らく其人名は秘し置くよし而して目下同市參事會より大坂砲兵工廠に照會中の不足額四五千噸の追入札の如何は同工廠の確答を得て更に決定する筈なりと云へり

○福嶋中佐と偕行社員

在京の偕行社員六百餘名は一昨夕より九段坂上の同社に集會して福嶋中佐の爲め特に慰勞の宴を開きたり是れ中佐が騎馬旅行の調査を畢りて漸く歸京せしを機として一夕の酒莚を開きたる丈けにして別段中佐より改まりたる談話等もなく唯談笑の間に獻酬し主客歡を盡して散會を告げたるなりしといふ

○東京札幌間の旅行三日

兼て記したる如く青森室蘭間に於ける定期航海は郵船會社にて愈よ一昨一日より開始したるが右定期船の爲めに東京札幌兩地間の旅行時日も從前に比しては餘程の減縮を見るに至り最も急行を要するとせば七十二時四十五分間即ち三日と四十五分にして東京より札幌に到達するを得るよし尤も汽車の進行と汽船の航海との時間のみは相合して僅に四十二時間餘に過ぎざれども車船連絡の爲めに徒費すべき時間を始めとし汽船寄港の時間もあり殊に室蘭札幌間には夜行汽車の無きが爲め室蘭に一泊を要する抔の事あるより旁々前記の如く七十二時間餘を要するものなりと云ふ今試みに其急行に係る汽車汽船の發着時刻を揭ぐれば左の如し

汽車
第一日 午
第二日 午
汽船
第二日 午
第三日 午
汽車
第四日 午
同日 午

○大坂石油株式

衛、宮津健次郎の
式會社は今度愈よ解
人五名にて負擔し
る三十日大坂府廳
營業の目的は新潟
を汲取り大坂の製
なれば先づ最初に
建築運動資本に充

○大坂の在米高

十日調査せし同市
外國米九千六百八
地米は二萬三千六
石を減じたるよし
に着荷せしものは
の地方よりは未着

○馬車鐵道收入

る九月二十一日より
報は左の如し

一二十三萬千七百四
一金四千九百五圓七
一六十八萬六千九百
一金一萬四千三百九
一日平均 金四

○白米標準相場

連れて三等以下の

一等白米
二等白米
三等白米

○奥山閣花園の

は例に依り二箇所の

香油 東煉油

陸軍大將大勳位
故左近衛權少將

楽

元和偃武後三百年間
之を見れば 一大
の活傳記
言妙論ならざるはな
來稀有の珍書と謂く
發行所